

会員各位

このたびは、2025年10月25日(土)に開催いたしました第29回関西MIST研究会に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで117名(医師64名、コメディカル53名)の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。心より御礼申し上げます。大阪万博の閉幕を迎え、秋も深まり肌寒を感じる季節となりました。Spine Week Japanの前週というご多忙な時期ではございましたが、今回は「感染性脊椎炎に対するMISTの功罪」をメインテーマに掲げ、コンパクトながらも実り多い学びの場となりました。

■ 第1会場:一般演題・シンポジウム・特別講演

第1会場では、脊椎感染症に関する一般演題10題、シンポジウム1題、および特別講演2題を企画いたしました。一般演題では、難治症例の治療経験、手術手技の工夫、術後感染予防など、多彩で示唆に富む発表が行われました。厳正な審査の結果、

最優秀演題賞: 京都府立医科大学 福原大祐先生

優秀演題賞: 兵庫医科大学 木島和也先生

が選出されました。活発な質疑応答を通じて、日常診療に直結する多くの知見が共有されました。シンポジウムでは、小野直登先生(関西医科大学)・山浦鉄人先生(兵庫医科大学)・横須賀公章先生(久留米大学)・山田勝久先生(北海道大学)の4名のシンポジストをお迎えし、内視鏡による洗浄術からMISTの適応、前方搔爬の是非に至るまで、臨床現場で直面する課題について活発な議論が交わされました。会場から多くの質問が寄せられ、熱気に包まれたディスカッションとなりました。

特別講演1では、兵庫医科大学感染制御部の中嶋一彦先生より「感染制御の視点から見た化膿性脊椎炎の治療と管理」と題してご講演いただきました。抗菌薬の適正使用、起炎菌同定のための検査戦略、多職種連携の重要性など、整形外科医にとって実践的かつ有益な内容でした。

特別講演2では、筑波大学の船山徹先生より「MISTがもたらす化膿性脊椎炎治療の功罪」と題してご講演いただきました。多施設臨床研究から得られたエビデンスや基礎研究の最新成果を踏まえ、MISTの役割と限界、さらに術後SSIに対するCLAPの実用性など、多面的な視点から深い洞察を頂きました。

■ 第2会場:チーム医療セッション

第2会場では、看護師4名・放射線技師2名によるコメディカルセッションを実施しました。フロア投票の結果、

最優秀演題賞: 三好病院 放射線技師 細原祥平さん

優秀演題賞: 兵庫医科大学 高田裕子さん

が選出されました。会場は満席となり、チーム医療の重要性を改めて実感する熱気あふれるセッションとなりました。

■ 第3会場:ハンズオンセッション

第3会場では、コメディカル向けに生体ブタおよび模擬骨を用いた実技ハンズオン、医師向けには最新のLIF手技体験を企画し、いずれも大変な盛況を博しました。

参加者からは「実践的で学びが多かった」との声が多く寄せられました。

■ 結び

地方学会が多く開催される10月という多忙な時期にもかかわらず、遠方よりご参加くださった演者の先生方、参加者の皆様、そしてご協賛いただいた企業の皆様に、心より感謝申し上げます。また、開催にあたりご尽力くださった当院スタッフおよび関連施設の皆様のご支援により、本研究会を無事盛会裡に終えることができました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

閉会時の集合写真を添付いたします。

次回の第30回関西MIST研究会は、2026年10月に山崎良二先生を当番幹事として開催予定です。引き続き皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

寒さが一段と厳しくなる折、皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

2025年10月25日

第29回関西MIST研究会 当番幹事

兵庫医科大学 整形外科

圓尾 圭史 拝

